

第2回まるごと多摩川まつり

第42回多摩川流域セミナー

「川と海をつなぐ河口の魅力 河口から考えるこれからの川づくり」

開催報告

1. 概要

- 日時：2014年9月28日（日）9:30～16:00（晴天）
- 主催：多摩川流域懇談会、共催：多摩川流域協議会、
協力：NPO 法人多摩川干潟ネットワーク

表 1.1 「第2回まるごと多摩川まつり」概要

項目	時間	場所	参加者数（概算）
多摩川を歩く～河口編～	9:30～12:00	天空橋駅～ 大師河原水防センター	計 496 名 ⇒参加者 : 369 名 (歩く: 60名、セミナー: 65名、干潟観察 会: 44名、ひろば: 200名) ⇒スタッフ: 127 名 (流域懇談会: 51名、干潟館: 23名、地元 消防団等: 24名、とどろき水辺の楽校: 7 名、マリンロータリークラブ: 22名)
第42回多摩川流域セミナー	13:00～16:00	大師河原水防センター 2階会議室	
いい川づくり交流ひろば	12:00～16:00	大師河原水防センター 前広場	

2. プログラム

多摩川を歩く～河口編～9:30～12:00

- 開会挨拶：中村文明氏（TB ネット、流域懇談会代表として）
田上副所長（京浜河川事務所、流域協議会代表として）
- 司会：米沢課長（京浜河川事務所）
- 現地案内（見学コースについては3ページ参照）：
 - ③五十間鼻、ねずみ島、⑤羽田の渡し跡、⑥羽田旧レンガ堤：
1班→米沢課長（京浜河川事務所）、2班→尾崎係長（京浜河川事務所）、佐山氏（TB ネット）
 - ②大鳥居前、⑧干潟：瀬戸氏、石橋氏（大田区）
 - ②海老取川：越田氏（東京都）
 - ④羽田第一水門：菊池氏（京浜河川事務所）
 - ⑦高潮堤防工事箇所：瀬尾氏（京浜河川事務所）
 - ⑨大師橋橋詰広場：張戸氏（川崎市）
 - ⑩大師河原水防センター：中村公叙氏、中村修也氏（京浜河川事務所）

第 42 回多摩川流域セミナー：13：00～16：00

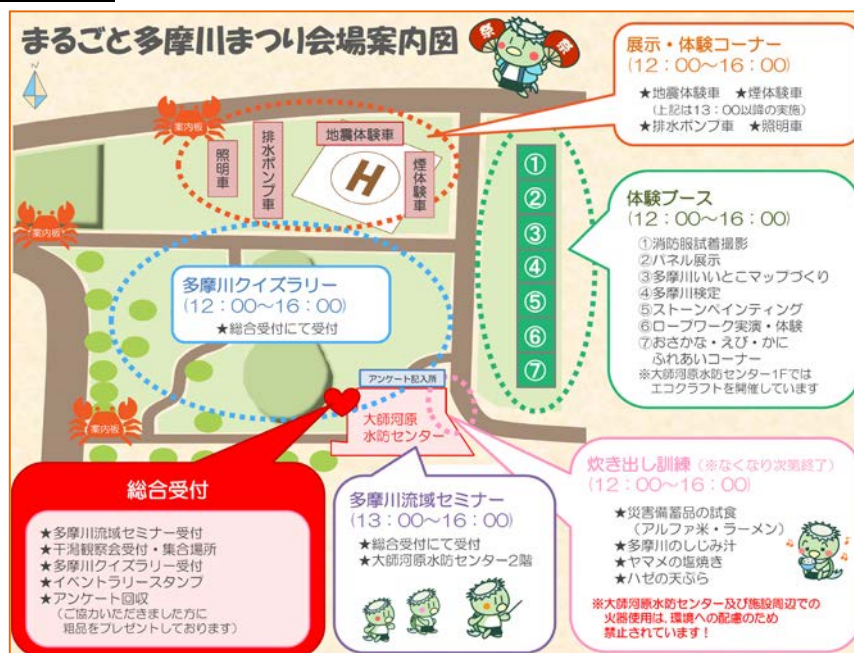
テーマ：「川と海をつなぐ河口の魅力 河口から考えるこれからの川づくり」

- 開会挨拶：宮林茂幸氏（流域懇談会会長）、中村文明氏（流域懇談会運営委員会会長）
- 河口での活動発表
 - ① 佐川麻理子氏（大師河原干潟館）「多摩川河口干潟の自然が教室」
 - ② 伊藤恵子氏（多摩川とびはぜ倶楽部）、瀬戸隆司氏（大田区）
「羽田水辺の楽校」-子どもたちが裸足で遊べる干潟づくり-
 - ③ 中村公叙氏（京浜河川事務所）「多摩川の防災対策の取組みについて」
- 基調講演
工藤孝浩氏（海をつくる会）「多摩川河口からみた東京湾の魚」
- 意見交換会
現地振り返り：笹木延吉氏（TB ネット）
コーディネーター：佐山公一氏（TB ネット）、田上祐二氏（京浜河川事務所副所長）
アドバイザー：神谷博氏（TB ネット）
コメンテーター：発表者・講演者 5 名
- 閉会挨拶：船橋昇治氏（京浜河川事務所所長）

いい川づくり交流ひろば：12：00～16：00

多摩川流域懇談会の他、NPO 法人多摩川干潟ネットワーク等がブースやパネルを出展。

- 展示・体験コーナー…地震体験車、煙体験車、排水ポンプ車、照明車
- 体験ブース…消防服試着撮影、パネル展示、多摩川いいとこマップづくり、多摩川検定、ストーンペインティング、ロープワーク実演・体験、おさかな・えび・かにふれあいコーナー
- 炊き出し訓練…災害備蓄品の試食（アルファ米・ラーメン）、多摩川のしじみ汁、ヤマメの塩焼き、ハゼの天ぷら、焼きそば
- 多摩川クイズラリー



会場案内図

3. 多摩川を歩く～河口編～

気持ち良い風に吹かれながら、総勢 60 名を超える参加者が 2 班に分かれて多摩川沿いを歩きました。京浜河川事務所や沿川自治体の職員の解説の下、海老取川、大師橋などの河川や構造物、大鳥居や五十間鼻、羽田の渡し跡、羽田旧レンガ堤、旧大師橋親柱などの歴史的な資源、羽田第一水門や高潮堤防工事箇所などの河川整備箇所、干潟のような河口ならではの自然環境を見学しました。



見学ルート

3.1 集合

- 9 時までに天空橋駅に集合し、大鳥居前へ移動しました。参加者にはマップと説明資料が配布されました。



集合の様子（大鳥居前）



配布資料（左：A3 両面マップ、右：B5_32 ページ資料）

開会挨拶

- 多摩川流域懇談会運営委員会委員長である、TB ネットの中村さんから、源流から山、川、海のつながりが多摩川の最大の魅力であること、今回のまるごと多摩川まつりでは源流からは源流水やヤマメ、河口からはしじみやハゼなど源流から河口までの食べ物を味わえること、源流の現状、JICA の研修生が参加し国際的なメンバーで進めていくことについてお話がありました。また、多摩川源流協議会の 4 市町村合同マップシンポジウム開催（12 月 2 日）の告知がありました。
- 京浜河川事務所の田上副所長から、多摩川流域協議会は流域の自治体が連携しながら進めていること、多摩川の概要についてご説明がありました。
- 見学ルートやスケジュールについて、京浜河川事務所米沢課長よりご説明がありました。



中村文明さんの挨拶



田上副所長の挨拶

3.2 現地見学

- ① 天空橋駅
- ② 大鳥居・海老取川

大鳥居については、マップの裏面の変遷を見ながら、昔大鳥居、穴守稲荷は羽田空港のある鈴木新田という地域にあったことや穴守稲荷の説明、大鳥居の移転の経緯について説明がありました。また、初日の出の写真スポットとなっているそうです。

海老取川については、潮の満ち引きを受けていること、アユやハゼなどが確認されていること、高潮の被害があり治水事業を行っていることなどの説明がありました。

- ③ 五十間鼻

多摩川の洪水で下流が削られないように作られたというお話がありました。参加者は高潮堤防から河道内を覗いて、五十間鼻を確認していました。



五十間鼻



説明の様子

④ 羽田第一水門

羽田第一水門は堤防のゲートを閉めることで堤防の代わりをしていること、川の方に新堤防ができ、船をつける場所が無かったのが高潮時に船を守る船溜まりがつくられたことについてお話がありました。また、水門の上には操作場所があるが、東日本大震災をきっかけに、遠隔操作ができるように整備したことについて説明がありました。

⑤ 羽田の渡し跡

大師橋ができるまではあった「渡し」について説明がありました。

⑥ 羽田旧レンガ堤

レンガ積みでさらに鉄筋をいれて強度をあげる「金森式レンガ」の構造について説明がありました。また、今も残っている船止め用の金具や階段を確認しました。

⑦ 高潮堤防工事箇所

工事前の写真のパネルを見ながら、洪水や波浪による高潮を防ぐ高潮堤防の役割について、平成 24 年から順次工事を進めている状況について説明がありました。6 割くらい整備済みなのだそうです。



羽田第一水門の説明



羽田の渡し跡



羽田旧レンガ堤



裏側に残る階段を見ている参加者の皆さま

⑧ 干潟

干潟が見えている干潮時の写真を見ながら、活動状況や東京湾の干潟が少なくなっている状況で多摩川河口の干潟は貴重であるとのお話がありました。

⑨ 大師橋橋詰広場

旧大師橋の写真を見ながら、その歴史、親柱が保存されていること、現在の大師橋はクリスマスや年末年始にライトアップすることについて説明がありました。

⑩ 大師河原水防センター

大師河原水防センターの整備状況や役割、備蓄材についてパネルを見ながら説明がありました。



干潟を見つめる参加者の皆さま



大師橋より眺める干潟



大師橋の説明の様子



大師河原水防センターでの説明の様子

○意見や質疑応答

<高潮堤防対策区間>

Q：今回見学箇所隣接している堤防天端が低い箇所は、今後嵩上げするのか？

A：予定していない。

<意見・感想>

・説明を聞きながら歩くことで、普段通るだけでは気づかないことを知ることができた。

　　こういう機会を今後も設けてほしい。

・ぜひ中流編や上流編もやってほしい。

など

4. 第 42 回多摩川流域セミナー

4.1 開会挨拶

- 多摩川流域懇談会会長の宮林先生（東京農業大学地域環境科学部教授）より、“流域社会”という視点で上流から下流のモノのつながり、循環を考えることが重要であること、環境のつながりを持続させていくことが重要であることについて、そして多摩川で、大きな流れの中できちんとした環境のつながりのモデルを作って世界へ発信していく基盤にしていければというお話がありました。
- TB ネットの中村さんより、源流、川、海の生きたつながりが重要であり、そのまとめの東京湾の自然や生態に詳しい工藤さんよりお話をいただくことにしたことなどのお話がありました。

4.2 河口での活動発表

①「多摩川河口干潟の自然が教室」佐川麻理子さん（大師河原干潟館）

【発表概要】

- ・（「NPO 法人多摩川ネットワーク」代表の小泉さんよりご挨拶）多摩川のいろいろな地域での活動に携わっている方々が集まっていると思いますが、多摩川 138km の中で今回は河口地域のことを学んでください。
- ・ 河口干潟は川の両側出口に広がる干潟で、大田区と川崎市で共有しています。干潟を川の中央の方へ歩くと、さらさらの砂になっています。ケフサイソガニやヤマトオサガニ、アシハラガニなどがいます。
- ・ 大田区側の干潟ではセイタカシギが来ます。貴重で、3色できれいな色をしているため、8月末から3月にかけていつ行ってもいます。
- ・ 秋にはハゼ釣りをしますが、子どもたちは竿の持ち方を知りません。剣を持つようにして穂先から伸ばしていきます。---（竿の使い方実演、参加者に手渡し）タモ網ではがさがさやると生きものたちが穴に隠れてしまうので、干潟では地球を削るように使います。ハゼ釣りの後には頭を落として調理をするところまでやります。早春には野草採りをします。
- ・ 私が幼い頃についてレジュメをお配りしています。私が小さい頃は一番多摩川が汚いときだったかもしれませんが、その頃母親たちがどのように向き合っていたのかなどを書いています。



宮林先生の挨拶



佐川さんの発表の様子（釣竿実演中）

②-1「羽田水辺の楽校-子どもたちが裸足で遊べる干潟づくり-」伊藤恵子さん（多摩川とびはぜ倶楽部）

【発表概要】

- ・ 子どもたちは干潟に入るとはじめは汚れることを嫌がりますが、一度汚れると自分からわざと汚れる子もいるほど泥遊びが大好きです。
- ・ 干潟がどのように楽しく、大切なところか子どもたちに知ってもらうために、環境を整備しなくてはなりません。
- ・ 危険だから近づかないのではなく、楽しさを知ってもらっています。捕まえたカニの種類や見分け方の説明もしています。楽しい活動の後には干潟へのお礼としてゴミを探してもらっています。
- ・ 大人だけで楽しもうという活動もしています。2005年に活動を開始し、2009年には多摩川ふれあいコンサートを実施し、指導員養成講座を開講しました。多摩川とびはぜ倶楽部代表の片岡さんは定年後にこの講座を受けた卒業生です。お孫さんと一緒に干潟に行くようになったところ、お孫さんは「遊園地やショッピングに行くより、おじいちゃんと多摩川に行った方がいい」と言うようになったそうです。
- ・ 干潟は川と海とが出会う場所です。人と生きものが触れ合う場所です。裸足で遊べる干潟をつくる努力を続けたいと思います。

②-2「大田区の自然特性と水辺の楽校」瀬戸隆司さん（大田区）

【発表概要】

- ・ 大田区の自然特性としては、緑豊かな山、空港を含めた海沿いの臨海部、多摩川沿いの地域と、豊かな環境にあります。
- ・ 10年計画のみらいプランを策定しており、H26は中期計画として水辺とのふれ合いを目標とし、海老取川沿いに海辺の散策路を作ることに取り組んでいます。区立大森ふるさとの浜辺公園では水辺のスポーツができる空間として活性化していくことも考えています。
- ・ 今年の3月に羽田水辺の楽校とうのき水辺の楽校を登録していただきました。今年の9月には羽田水辺の楽校の活動にうのき水辺の楽校の子どもたちが参加するなど、交流も始まっています。情報交換や連携の面で支援をしていきたいと考えています。



発表中の伊藤さん



発表中の瀬戸さん

③「多摩川の防災対策の取り組みについて」中村公叙さん（京浜河川事務所防災情報課）

【発表概要】

- ・ 大田区洪水ハザードマップを例としてお見せしますが、多摩川がいざ破堤したときの浸水状況を確認していただけます。このように各自治体でハザードマップを作っています。
- ・ 多摩川での防災対策の取り組みとして、万が一の時、復旧作業や緊急用車両が通行するために使用する緊急河川敷道路の整備を、河口から国道16号（拝島橋）まで進めており、現在4割弱が整備済みです。緊急用船着き場は2箇所整備済みです。
- ・ 防災ステーションは多摩川で6箇所の整備を予定しており、平成19年に大師河原防災ステーションが多摩川で初めて整備されました。洪水など大規模な被害が起きた場合の対応ができるように備蓄材を保管したり、作業スペースを確保したりしています。
- ・ 広域支援として、TEC-FORCEが伊豆大島等で対応しています。
- ・ 最後に、台風などの際には命を守る行動ができるように情報収集してほしいと思います。



発表中の中村さん

4.3 基調講演

- ・ 司会の石坂さんより、工藤さんのご紹介がありました。「工藤さんは、学生時代から30年にわたって東京湾に潜って魚の暮らしぶりを調べており、近年はアマモ場の再生活動に取り組んでいます。東京湾で撮った魚の写真と科学的なデータをあわせて、「東京湾の魚の今」をお伝えさせていただきます。」

「多摩川河口からみた東京湾の魚」 工藤孝浩さん（海をつくる会）

【発表概要】

○自己紹介

- ・ 横浜に住んでおり、職場は城ヶ島というところに通っています。実はさかなクンは弟子の一人です。高校生の頃から知っています。

○多摩川の魚について

- ・ 多摩川の魚の調査としては、1976年に中村守純という人が56地点を調査していたのですが、調布堰より下流は手つかずでした。
- ・ 実際は調布より下は海の水が上がってくところが魅力的です。多摩川は東京湾の真ん中に位置しています。
- ・ 東京湾の魚を調べた際に、殿町干潟で引き網調査をしたことがあります。細かい網で、稚魚を対象としたものです。優占種（その場所で一番メジャーな魚のこと）は、マハゼ、ビリンゴ、ボラ、マサゴハゼ、サッパの5種で採集数の9割を占めています。特にハゼは種数（種類）が多いのですが、全国的には減っています。
- ・ ハゼについて、シマハゼは1種類だと考えられていましたが、1989年に今上天皇が2種あることを発見されました。エドハゼは神奈川では多摩川にしかおらず、トビハゼにとって多摩川は2箇所が安定した生息地となっています。
- ・ 春、盛大に水しぶきをあげてのぼってくる魚がマルタです。絶滅したと言われていましたが復活しました。海も川も環境が良くなると両方に依存している種がよみがえってきます。
- ・ 魚の一生（生活史）は6つのタイプに分かれますが、確認された魚のタイプを見てみると、東京湾内でも地域性があり、江戸川放水路は湾奥の要素（河川の影響を受けている）湾口要素（外海の影響を受けている）に支配されていますが、多摩川の河口はその両方の要素があります。

○アマモについて

- ・ アマモ場はよく海のゆりかごと言われますが、魚などの隠れ家や保育園にもなっています。アマモは海草です。花が咲いた後の枝を採取し、束にして水槽に沈め、種を熟成させて増やします。
- ・ アマモという言葉が広まってきたのは、2005年に東京湾発の全国豊かな海づくり大会（皇室行事）が開催され、アマモの再生を始めたころからです。2007年にか

けて、植えていないところにもアマモが増えており、自立的に再生していることが分かりました。

- ・ アマモ場に暮らしている魚の調査をしたところ、2010年から2011年にかけて急減しました。2010年の夏は暑く、29度を超える環境での生育は難しいアマモが猛暑枯れしてしまったためです。しかしその後再拡大しました。
- ・ アマモが生育するような浅場が無いことが課題であり、そういう場をつくる必要となっています。サンフランシスコでは人工的に浅場を作り再生をしている事例があります。横浜では埋め立て地を海に戻す計画が始まっています。テレビ番組「鉄腕 DASH」ではこのノウハウの発信を行っています。
- ・ アマモは精神的なつながりを取り持ってくれていることも考えられます。伊勢の二見興玉神社ではアマモを使った神事があり、千葉の銚子大神幸祭（20年に1回）ではスナモを鳥居に巻きつける習慣がありました。
- ・ 環境再生というのは人づくりに行きつくと思います。ジョン・F・ケネディの大統領就任演説にありますが、「要望する市民」を「行動する市民」として巻き込んでいければ、海も川も良くなるのではないかと思います。

【会場からの質問】

Q：海からみた多摩川への期待や思いを教えてください。

A：私の夢は東京湾にシラウオを復活させることです。その復活に一番近いのは多摩川だと思います。霞ヶ浦や印旛沼にはシラウオが生息しており、もともとは多摩川と同じ個体群であることが分かっています。

Q：シラウオについて霞ヶ浦や印旛沼は水質としてはあまりいい条件ではないと思います。多摩川の場合調布堰より下はほとんどが高度処理水となっていますが、違いはありますか。

A：シラウオは水質から見るとタフだと思います。一番の課題は産卵気質が失われたこと、砂地がないことだと思います。川底を動かす必要があります。



発表中の工藤さん



質問中の参加者

4.4 意見交換会

- TB ネットの笹木さんより「多摩川を歩く～河口編～」の振り返りをさせていただきました。
- 発表していただいた方全員に前に出ていただき、意見交換を行いました。

【佐山さん (TB ネット)】

干潟での活動の苦労点はありますか。

【佐川さん (大師河原干潟館)】

自分が子どものころと今の子供たちとの温度差を感じるがあります。今の子供たちは生きものを触れず、触るときも親に確認してもらってから触っているのを見ます。

【佐山さん (TB ネット)】

活動の中での気づきがあれば教えてください。

【伊藤さん (多摩川とびはぜ倶楽部)】

干潟のゴミは減ってきました。ビニールや資材があるとゴカイなどは潜れません。そうすると空気が入らず、ヘドロのようになっていきます。また、口で説明しても分からないことがあるので、シジミによる水の浄化の様子など、目に見えることで教える工夫をしています。

【佐山さん (TB ネット)】

川ゴミサミットに出席し、裸足で歩ける海岸づくりの発表を聞いてきました。とても重要なことで、地元で活動されている取組みとして聞かせていただきました。

【佐山さん (TB ネット)】

話しそびれたことが教えてください。

【中村さん (京浜河川事務所)】

今回は災害が起きた後の話でしたが、災害、被害を防ぐための高潮・高規格堤防の整備も進めています。



意見交換の様子



質問中の参加者

【参加者】

多摩川の河口には昔はアマモ場があったのでしょうか。もしアマモ場を再生させたら生態系に良い影響はあるのでしょうか。また、生育するための環境条件等を教えてください。

【工藤さん（海をつくる会）】

明治時代の漁場図が残っているのですが、そこにはアマモ場の存在がかかれており、東京湾最大のアマモ場が多摩川河口から鶴見川にかけてありました。今は埋め立てにより河道内にか干潟がないため、海に面したところに干潟がある必要があると思います。大田区の大森ふるさとの森公園でもアマモの種をまいていますが、水温が高く、夏を越しません。しかし、一時的にでも稚魚が出る時期（春）にアマモがあれば、魚を育てる効果は大きいと思います。

【佐山さん（TB ネット）】

以前、川から流れてくる除草剤でアマモが枯れると聞いたことがあるのですが、今行われている活動の中で、アマモへの被害は改善されているのでしょうか。

【工藤さん（海をつくる会）】

アマモは陸の雑草と同じで、除草剤は効いて枯れてしまいます。東京湾は、都会であるからこそ、近くに農地が無いので、影響は出ていません。瀬戸内海は影響が大きいそうです。

【佐山さん（TB ネット）】

発表者の方から川と海をつなげて行く上で工藤さんに聞いてみたいことなどがありますでしょうか。

【瀬戸さん（大田区）】

大森ふるさとの浜辺公園で工夫できることはありますか。

【工藤さん（海をつくる会）】

公園ができる前はコークスがたくさんある場所でした。これからハゼを増やす取り組みをしてみてもどうでしょうか。砂を入れていない深みを浅くしてみるとよいと思います。

【参加者】

先日広島で大雨による被害がありましたが、数年前の大雨で大水が来たことを覚えています。その際の雨量と広島での短時間豪雨の雨量はどのくらいなのでしょう。

【田上副所長（京浜河川事務所）】

今回の広島では3時間で200ミリ以上の雨が降りました。平成19年9月の洪水の際には累計400ミリ近く降りました。広島の場合は短時間で大雨が降っています。

最近は短時間で雨が降って一気に水が出る（水位が上がる）傾向にあります。情報が入ったら早めに逃げて川から離れてほしいと思います。

【神谷さん (TB ネット)】アドバイザー

防災の話は国全体のこととして「グリーンインフラ」ということで、日常の活動と一緒にやっ
ていこうという動きがあります。

工藤さんのお話では、ハゼの分布域について、大変興味深かったです。

私自身野川で湧水保全の活動を行っていますが、多摩川は急流河川で湧水がたくさん東京湾
に流れてきているところと、ハゼの分布域が重なっているような気がしています。

今日は河口、海の魅力についてお話を伺ってきましたが、これから「多摩川らしさ」という
ことで多摩川の歴史に関する新しい取り組みを始めようとしています。

【工藤さん (海をつくる会)】

普段は川の方との付き合いが少ないので、今回新たな視点をいただきました。ありがとうご
ざいました。



会場の様子



発表者・アドバイザーの皆さま

4.5 閉会の言葉：船橋 昇治（京浜河川事務所長）

テーマは「川と海をつなぐ河口の魅力 河口から考えるこれからの川づくり」ということで、
河口域中心に話をしてきました。多摩川も状況としては改善されてきて生きものも増えてきた、
様々な活発な活動が行われて触れ合う人も増えてきたという話がありました。非常に明るい未来
が開けているのかなと思います。これから環境面でもサポートしながらいい川を作っていきたい
と思います。そして、多くの方々との交流を深めながらいい川を後世に残していきたいと考えて
います。本日はありがとうございました。



船橋所長の閉会挨拶

5. いい川づくり交流ひろば

- 干潟観察会

たくさんの親子連れでにぎわい、干潟ならではの多様な生き物を観察しました。

- 炊き出し訓練

災害時に備えた炊き出し訓練として、防災食の提供がありました。また、多摩川源流のヤマメの塩焼きや、多摩川河口のハゼの天ぷら、しじみ汁、焼きそば等を味わいました。

- 体験ブース

多摩川検定や、多摩川のいいところマップづくり、パネル展示、ストーンペインティング、ロープワーク、おさかな・かに・えび体験コーナー、消防服記念撮影など、盛りだくさんでした。

- 展示・体験コーナー

排水ポンプ車や照明車の展示の他、地震体験車や煙体験車ではたくさんの参加者が災害体験をしていました。クイズラリーでは大師河原水防センター前広場を、参加者が問題を探してめぐりました。

- その他

「多摩川を歩く～河口編～」より、JICA 研修生の皆さまが参加しており、京浜河川事務所から多摩川での取組みや流域懇談会について説明を行いました。



晴天の下、多くの参加者が集った大師河原水防センター

以上



干潟観察会（どんな生きものがいたかな？）



多摩川検定に挑戦



地震体験車も登場



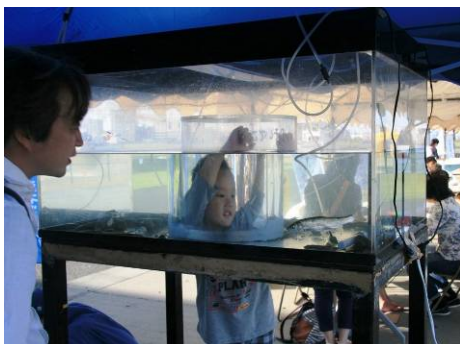
ストーンペインティング



多摩川いいとこマップづくり



炊き出し訓練（源流のヤマメ！）



魚の目線でふれあい



JICA 研修の皆さまへ解説中